

事業報告書

第XI期

自 平成6年4月 1日

至 令和7年3月 31日

一般財団法人三光丸クスリ資料館

I. 一般財団法人設立後の状況

平成 26 年 12 月 8 日に一般財団法人三光丸クスリ資料館の設立登記を行って以来、今回で 11 期目の事業報告となる。

今期の事業方針は、公益財団法人への移行を視野に入れながら、①「見学者数増加、見学者の年齢層拡大」および②「出張展示、講演など積極的な館外活動の実施と、広報活動の充実」③「資料館活動による収入源確保」④「配置家庭薬、漢方薬、和漢薬および中世大和の国人越智氏に関する調査研究・資料蒐集および情報公開」⑤「文化支援・助成事業として社員研修棟・直心庵の活用」⑥「新型コロナウイルス感染症対策」に努めるというものであった。

以下、本年度の事業実績を列挙する。

II. 令和 6 年度事業実績（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）

1. 資料の蒐集、保管、公開

(1) 施設の開館状況

開館日数：268 日（昨年度 271 日）

入館者数：1,341 人（昨年度比-80 人、一昨年度比+182 人）

入館者のうち、10 人以上の団体見学者数は 567 人であり、全体の約 42%を占めている（昨年度は 40%）。団体の多くは学校関係（小学校 49 人、高校 27 人、中学 24 人、大学生 0 人）および各種福祉団体（人権擁護委員会、赤十字奉仕団など）、高齢者のサークル、ハイキング、ウォーキングなど。海外からの見学者は 43 人（台湾、中国）と昨年（5 人）より大幅に増加した。

令和元年 12 月から始まった新型コロナウイルスによる感染拡大の影響については、5 類引き下げ後、個人・団体とも来館者数は回復傾向にある。

(2) 常設展示

まほろば館

※ 展示内容は昨年度とほぼ同じだが、見学者用の資料（印刷物）を増やした。今後は海外からの見学者増加が見込まれることから、英語、中国語（簡体字、繁体字）、ハンゲル文字による解説文も拡充を図っている。

※ 令和 4 年 5 月、映像コーナー「やうじやう座」のナレーションに、子供向けバージョンを追加した。映像は今までと同じだが、女性ナレーターによる優しい口調で表現も子供にわかりやすいようになった。また、工場見学ができない場合を想定して原料加工、製剤に関する動画も追加した。

こころの館

※ 庭に面した一角に椅子とテーブルを増やし、各種資料を置いて休憩・資料閲覧コーナーを設けている。さらに、「クスリ作り体験コーナー」には、新型コロナ対策として使い捨てのゴム手袋を用意している。

※ 小学校の社会見学、遠足は相変わらず多く、見学後に先生が学級新聞など生徒たちの感

想文を持参してくださるケースも多い。それらを一定期間館内に掲示している。
※ 御所市南郷の飯室様から寄贈された資料を新たに展示している。(下記参照)

(3) 企画展示

企画展示室

企画展示コーナーでは、平成 31 年 4 月以降、「大和売薬の源流を辿る」と題し、中世から近世に至る大和国の歴史を俯瞰しながら、越智氏、米田氏および興福寺と大和売薬のかかわりについて紹介している。

また、令和 6 年 11 月、御所市南郷の飯室様（旧姓中坊様）より携帯用棹秤、真鍮製合匙（ごうひ）、明治～大正時代の薬、贈答用の九谷焼猪口、配置用大袋を寄贈いただき、「こころの館」と企画展示室に分散・展示している。

2. 普及啓発事業

三光丸クスリ資料館では、一般財団法人移行前から、地域社会への貢献を目的とした事業を積極的に展開してきた。このような活動は、江戸時代以降、長年にわたり大和の配置売薬業界を牽引してきた「三光丸」に課せられた重要な役割と考えるものである。主な活動は以下のとおり。

(1) 主な施設内活動

- ① 8 月 14 日（水） 明日香村文化協会・境山会長より大正 14 年の得意帳（釜山南部 第 16 号 大和三光丸）、薬の薬方書 2 冊（明治初期）をご寄贈いただいた。
 - ② 9 月 30 日（月）、ポーランド国ワルシャワ薬博物館のイウォーナ・アラバス館長と、夫君でポーランド科学アカデミー会員のヤツェック・アラバス博士が発表会出席のため来日した機会を利用し、当館にも立ち寄っていただいた。
 - ③ 11 月 14 日（木）～15 日（金） 青翔中学 2 年生 2 人が職場体験のため来館し、2 日間にわたり資料館業務のうち資料の新規登録、写真撮影などを体験していただいた。
 - ④ 11 月 14 日（木）～17 日（金） 資料館附属施設・直心庵にて陶芸家東川和正氏の作品展「玄彩展」を開催。平成 21 年の第 1 回開催以来、16 回目となった。
 - ⑤ 11 月 16 日（土）～17 日（日） 「第 22 回関西文化の日」開催に協賛し、資料館を開館。昨年に引き続き高取町の観光イベントに合わせて 17 日の夜、ライトアップを行った。両日の来館者 52 人（ライトアップの来館者 30 人含む）。
 - ⑥ 11 月 25 日（月） 奈良県文化財課による米田家古文書の調査が行われた。
- ※ 8 月の夏休み期間中、講演など資料館外でのイベント日および夏季休業日（盆休み）を除く土曜・日曜日を閉館した。期間中の来館者は 21 人（中学生以下 3 人）であった。

(2) 主な施設外活動

- ① 4 月 7 日（日） 高取町リベルテホールにて中世歴史講演会（講師：天理大・天野忠幸先生）を開催。主催は「大阪・奈良歴史街道ウォーク実行委員会」で協力は「越智氏奉賛会および高取町」。当館も越智氏奉賛会とともに協力した。

- ② 6月29日(土) 御所市の吉祥草寺にて講演会を開催。テーマは「修験道と奈良の薬」参加者16人(主催:大和まちなみ文化塾)
- ③ 7月14日(日) 東京・新橋の「奈良まほろば館」にて講演(「奈良と薬よもやま話 南都仏教と医薬・置き薬」)来場者50人。
- ④ 7月31日(水) 奈良県産業会館において「ならの教育応援隊」研修会を開催、ブース展示&プレゼン(学校関係の見学で資料館としてできる事を説明)をおこなった。
- ⑤ 10月2日(水)~10月7日(月) 阪神梅田本店「ボタニカルフードトリップ」イベントを開催(阪神梅田本店・共同通信社)、当館からは「資料展示」「館長によるトークショー」という形で協力した。
- ⑥ 10月14日(日) 中国医学協会講演会(大阪市淀川区)に参加、資料館長と奈良県薬事研究センターの西原総括調査員が奈良と薬というテーマでお話をした。
- ⑦ 10月17日(木) 京終サロン講演会(浅見:ならまち璣城寺にて)
- ⑧ 11月2日(土) 高取町教育委員会からの依頼により、高取町リベルテホールにて中世歴史講演会を開催(講師:浅見)。
- ⑨ 12月15日(日) イオンモール大和郡山にて「NaRa くすりと健康 2024」イベント開催、クスリ資料館も参加→昔の薬づくり体験(製丸および三光丸の袋詰め)→体験参加者は推定150人以上。
- ⑩ 令和7年2月17日(月) 奈良県立大学・ユーラシア研究センターにて研究発表会→ロート製薬創業者・山田安民氏に関する発表(担当:浅見)
- ⑪ 3月、奈良県立大学・ユーラシア研究センターによる論文集『大和の国のリーダーたちⅢ』完成(京阪奈情報教育出版社)「-ロート製薬の父- 山田安民」を浅見が執筆した。
- ⑫ 3月27日(木) 明日香村・犬養孝万葉記念館を訪問、前館長の岡本三千代先生所蔵の万葉集に関する本を寄贈される。現在資料館こころの館で「犬養万葉文庫」として展示中(来館者は閲覧可能)。

(3) 広報活動

- ① 令和3年2月から、大和高田市を中心とした中和地区をエリアとするコミュニティFMラジオ局が開局した。三光丸クスリ資料館および(株)三光丸もこれに協賛しており、定期的に同局のパーソナリティーが資料館を訪問・取材を行っている。
- ② 奈良県では、「ならの教育応援隊」と称し、学校・園の教育活動を充実させるため、県内の団体・企業に向けて見学会の実施や資料提供を依頼している。当館でもこれに賛同し、学校の見学、出前授業に対応しているが、昨年より新型コロナ感染拡大に対応する形で「zoom などによる動画の配信」を提供する旨、県に申請・受理されている。これによって、見学を実施できない学校・園にも奈良県の配置薬、漢方薬に関する情報の提供が可能となった。
- ③ 奈良県産業政策課による新たな観光商品の開発に協力。奈良中部エリアのモデルコースとして「くすりゆかりの地を巡るコース」(桜井市・狭井神社~宇陀市松山地区~三光

丸クスリ資料館)を設定、観光タクシーを利用した見学場所に指定されている。

- ④ 会社 SNS 班の協力を得て、資料館の紹介動画を撮影、定期的に情報発信を行っている。

3. 学術調査研究事業

継続事業として「大和売薬」「大和の薬」および三光丸の米田家、越智氏の歴史に関する調査研究を行なった。

大和の地では、古くから東大寺、唐招提寺、西大寺、興福寺などの有力寺院において庶民救済を目的とする“薬づくり”が盛んに行われてきた経緯があり、中でも藤原氏の氏寺として栄えた南都興福寺では、多聞院と呼ばれた子院しういんにおいて、医薬の知識を備えた僧侶たちがさまざまな薬を処方していたことがわかっている。

越智氏、米田氏は大和国における他の国人領主と同様、興福寺とのつながりが深く、家伝薬の製法も同寺から伝えられた可能性がある。

したがって、中世大和国における越智氏の動向を調べるのがすなわち、「大和の薬」の歴史研究につながるため、当館ではかねてよりさまざまな文献史料をもとに、越智氏に関する調査研究を継続的に行っている。以下、年度内の調査研究活動を挙げる。

- (1) 明治以降、昭和初期に至る得意帳の内容を精査し、当該期の得意先回りの実態を調査した。得意帳からは、取扱商品の種類と価格、代金の回収状況、回商頻度などのほか、得意先の分布状況、家族構成、健康状態などの情報も得ることができる。また、得意帳にはしばしば、次回担当者への申し送り事項や顧客とのやりとり、日々の雑感などが生々しく記されており、当時の世相や人情なども垣間見ることができる。このような資料は、日本人の生活史をたどるうえでたいへん貴重なものであり、研究成果を広く公開することが私たちの使命と考えている。
- (2) 『大乗院寺社雑事記』だいじょういんじやざうじき、『言継卿記』ことつぐきょうきなど、中世の第一級史料をもとに、越智氏、米田氏に関する調査研究を継続的に行った。
- (3) 明治から昭和初期までに製造販売されたさまざまな配置薬に関して調査し、資料の写真撮影および画像データの蓄積作業を行なった。
- (4) 高取町の黄檗宗寺院・光雲寺では、平成 31 年から「越智氏奉賛会」を結成し、講演会やフィールドワーク、他の団体との情報交換等により越智氏に関する情報を収集している。結成以来、当館も積極的にその活動に参加し、中世大和国・越智氏に関する調査研究を共同で行っている。令和 6 年 4 月 7 日（日）、高取町のリベルテホールに天理大学の天野忠幸先生をお招きして「中世歴史講演会」を開催。主催は大阪・奈良歴史街道ウォーク実行委員会で、越智氏奉賛会と高取町が協力し、越智氏の全盛期を築いた越智家栄の事績に関するお話をうかがった（来場者 101 名）。
- (5) 令和 4 年 7 月より資料館長が奈良県立大学・ユーラシア研究センターの客員研究員を委嘱され、同センターにて 2 か月に 1 回開催される研究発表会に出席している。今年度は、学術叢書『大和のリーダーたち』シリーズ 3 冊目を刊行、資料館長はロート製薬の創業者・山田安民（やすたみ/あんみん）氏に関する文章を担当した。なお、同研

究会は令和6年度で一定の目的を達したため終了・解散となった。

4. 資料館運営

理事会および評議員会を、下記のとおり開催した。

- ① 令和6年5月 定例理事会および定例評議員会を開催。議案は「事業報告」「決算報告」「監査報告」「理事および監事の任期満了に伴う改選」
- ② 令和6年8月 定例理事会は決議事項がなかったため、「資料館の活動報告」のみを理事・監事へ送付した。
- ③ 令和6年11月 定例理事会を開催。議案は「中間決算報告」「資料館の活動報告」
- ④ 令和7年2月 インフルエンザ等感染症の流行を考慮し、定例理事会および定例評議員会は書面による決議とした。議案は「令和7年度予算案」「令和7年度事業計画」「資料館の活動報告」

5. 課題・その他

- ※ 一般財団法人の設立以来、検討事項となっていた「入館料の設定」については、前期に引き続き実施保留となったが、令和6年3月以降、来館者にたいして適正と思われる入館料のアンケート調査を実施している。見学有料化による収入源確保は、将来にわたり安定的な活動をする上で必要なことであり、実現にむけて努力していきたい。
- ※ 平成24年度以降、奈良県では「漢方メッカ推進プロジェクト」と題し、薬用作物（生薬）の生産拡大と、関連する商品・サービスの創出まで一貫した体制の構築に力を注いでいる。これにともない、「大和のくすり」に関する貴重な資料を多数所蔵する当館の存在意義も大きなものとなっている。今後は、資料の調査研究成果を公開するなど、情報発信源としての機能を高めていきたい。
- ※ 新型コロナウイルスの感染状況については、現在やや落ち着きを見せ始めており、感染症法上の位置づけも5類に引き下げられている。しかし、人が集中する場所においては個人の判断でマスクなどの予防対策を講じる場面も多く、このような状況はまだ続く予想される。当館では、生薬見本コーナーや薬作り体験コーナーなど、五感をフルに活用する体験型学習を目的とした展示が多く、展示物や器材の消毒など、引き続き感染防止対策をおこなっている。今後も、当館の特徴を生かしつつ、安心して見学していただけるよう、感染対策に工夫をこらしていきたい。
- ※ ㈱三光丸は、2021年から会社裏山の針葉樹を一部伐採し、広葉樹を植栽することで昔の景観をとりもどす「里山計画」に着手、「混交林誘導整備事業」という形で県及び御所市の補助を得ながら進めてきた。事業内容はスギ、ヒノキなど針葉樹を間伐してクヌギやカシ、クリ、キハダなど広葉樹を植えて水害に強い山を作るというものだが、将来的には、資料館見学者が里山を散策できるように遊歩道の設置も計画している。当館としても積極的に応援していきたい。

以上